

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から未来へ向かって踏み出し、現状を目標に近づけるという意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、以下の3つをめざす。

- (1) 意欲と高い志をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育むとともにそれらを達成するための環境作りを進める。
- (2) 授業・行事・部活動に臨む際の集中力と自主性をより一層高める。
- (3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

そのため、学校総体として、充実した教育課程の中で生徒一人ひとりの学習意欲や基礎学力の向上、夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実、部活動及び生徒会活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実、規範意識や人権尊重意識の向上等を中心に「学校力」を常に全力で向上させることをめざす。

## 2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進
  - (1) 新学習指導要領をふまえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む  
公開授業、研究授業、校内研修、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、生徒が主体的に学ぶ授業を増加させ、「ICTを活用した授業」「生徒の表現力・発表力の向上」への取り組みについても研究を進める。学校教育自己診断における生徒の「ICTを活用した授業」生徒肯定率、68%、「生徒の表現力・発表力の向上」生徒肯定率 56%をそれぞれ 29 年度、72%、60%、30 年度は 75%、65%、31 年度は 78%、68%以上をめざす。
  - (2) 「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成
    - ア 生徒全員が学校生活をスムーズに送るため校時を遵守する意識を高める。そのため、登校時に校門での一斉指導を継続する。また、授業開始時には着席指導を行うなど、授業規律の確立に全教員で取り組む。年間総遅刻数 4000 以下をめざす。そして 30 年度以降も 4000 以下を継続する。
    - イ 校舎内外や教室の清掃・美化を徹底するとともに、授業環境のユニバーサルデザイン化を進め、学習が深められる環境を整える。

※ 生活基本調査における生徒の「授業への満足度」(平成 28 年度 67%)を毎年引き上げ、平成 29 年度には 70%、平成 29 年度には 73%を超える。また、学校教育自己診断等における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率(平成 28 年度 64%)を引き上げ、平成 29 年度には 67%以上を超え、30 年度以後 70%以上、31 年度以降その継続をめざす。
- 2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の充実
  - (1) 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取り組みをホームルーム活動、総合的な学習の時間等を通じて教育活動全体で行い、キャリア教育の充実をめざす。  
※ 学校教育自己診断における「キャリア教育充実度(生き方や進路を考える教育)」の生徒の肯定率(平成 28 年度 85%→29 年度 88%)を引き上げ、平成 30 年度には 90%を超え、31 年度以降 90%以上の維持をめざす。
  - (2) 生徒の希望進路実現への取り組み  
生徒の希望進路の実現に向け、学年及び関係分掌で具体的な方策を検討し、実現する。  
※ 年度当初の 4 年制大学進学希望を維持させる指導及び確実な就職指導の体制のもと、生徒の希望進路実現率を平成 29 年度には、4 年制大学 85% (平成 28 年度 82%)、就職 100% (平成 28 年度 100%) を維持する。平成 30 年度以降もそれぞれ 80%以上、100%を維持する。
  - (3) 国際理解教育と英語教育の推進
    - ア 具体的な取り組みとして、平成 26 年度よりの他の府立高校と合同での国際交流研修を継続し、平成 27 年度 3 人、平成 28 年度 6 人。今後も 5 名以上の参加者を確保し活性化する。
    - イ 近隣の大学や地域への留学生と交流することにより、海外からの留学生との交流も視野に入れた国際交流を検討する。
    - ウ 生徒が実践的な英語力を向上させるために、英検受験を奨励する。H29 年度は 35 人以上。(平成 28 年度 27 人) 30 年度以降毎年 45 人以上の受験者数をめざす。
- 3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上
  - (1) クラブ加入を促進する
    - ア 1 年次当初の体験入部や仮入部等の取り組みを充実させ、クラブ加入を促進する
    - ※ 1 年生のクラブ加入率・退部率(平成 28 年度は順にそれぞれ 81%、7%)を平成 29 年度にはそれぞれ 85%以上、4%以下にし、平成 30 年度以降、それら以上をめざす。
  - (2) クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上に取り組む
    - ア クラブ代表者会議やクラブ員集会をクラブ代表及び生徒会を中心に定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。
    - イ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。
    - ※ 学校教育自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者の肯定率(平成 28 年度は順にそれぞれ 72%、82%)をいずれも平成 29 年度には 75%、85%以上をめざし、平成 30 年度以降それを継続する。
- 4 人権教育と教育相談機能のさらなる充実
  - (1) 人権教育の充実を図り、年度ごとに時勢に即した内容をもとに計画に取り組み、人権意識の向上を図る。  
※ 学校教育自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率(平成 28 年度 77%)を平成 29 年度には 80%以上にし、平成 30、31 年もそれを継続する。
  - (2) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能とそれが行う研修をともに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒への合理的配慮を行い、また、自立を支援できる体制をより一層確立する。  
ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することにより生徒支援について一層の徹底をはかる。  
イ SC の延べ 2 5 回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。  
※ 学校教育自己診断における「学校生活についての指導の納得」、「先生は生徒が困っていることに真剣に対応」、「担任以外にも相談室等で気軽に先生や SC に相談することができる」の生徒の肯定率(平成 28 年度は順に 77%、75%、80%、)をいずれも平成 29 年度にはいずれも 80%以上をめざし、平成 30 年度、31 年度はそれらを維持する。
- 5 広報活動と地域連携の充実
  - (1) 入試改革による影響を的確に把握しながら、学校説明会・中学校訪問と広報活動の充実を図り、地元中学校との相互連携も深める  
ア 学校説明会・中学校訪問については、地元地域を重視しつつ学区撤廃による影響を的確に把握しながら、中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。  
イ 学校訪問と学校説明会、クラブ見学会の内容の充実に加え、地元中学校と地元地域の府立学校の連携会議の導入をはかる。  
ウ ホームページや配付物を通じて保護者、生徒、中学生に大冠高校の情報と魅力をより効果的かつ継続的に発信し、理解を深める  
※ 平成 29 年度から、元中学校と地元地域の府立学校の連携会議を開催するとともに中学校訪問の範囲・回数の維持によって、学校説明会・見学会等への参加者数を増加させることにより志願者の増加につなげる。
  - (2) 地域連携の取り組み  
授業、クラブ、生徒会等において、地域との積極的に交流機会を増やし、本校の教育活動についての理解を深めてもらう。  
※ 学校教育自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率(平成 28 年度 59%)を平成 29 年度には 63%以上にし、平成 30 年度には 67%以上をめざし、31 年度には 70%をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月 実施分]	学校協議会からの意見
(全体として) ○肯定率 3%以上アップ項目数: 生徒 2/28、保護者 14/26、教職員 11/36 となった。逆に肯定率 3%以上ダウン項目数: 生徒 7/28、保護者 0/26、教職員 11/36。基本的な項目、生徒の「学校へ	第 1 回学校協議会 (5 月 29 日) ・1 年は落ち着きがないが、全体的に授業の雰囲気は良くなり、授業に集中できている。←昨年も 1 年の落ち着きなかったが、今年、2 年になってからの授業は、落ち着いている。また、クラスによって、授業の雰囲気の差が激しいのが課題。

## 府立大冠高等学校

行くのが楽しい」79→79%、保護者の「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」85→88%となった。昨年の課題、保護者からの評価は改善したが、生徒及び教職員からの評価向上が見られず、課題となった。

(学習指導)

○生徒の生活基本調査「授業への満足度」は 66.4% (H28 66.6%) でほぼ変化なし。自己診断「授業が分かりやすく楽しい」64%も変化なし。「発表の機会がある」の生徒の肯定率がそれぞれ 56→55%、「ICTを使う機会がある」68→70%と微増と、授業改革の進展があまり見られない。ICTの活用に関しては、前年度末設備の充実をはかり教員研修も実施したが急激な伸びは見られなかった。「実験・実習等の授業の取り組みがある」については 43%と変化なし。更なる授業の進化を求めて、次年度は指導法の研修に努めたい。

○「学習評価の納得」に関しては、生徒 84→81%へ肯定的評価がやや減じた。保護者は「テストやその他を含む多面的評価」76→79%となり、評価及び学習形態の多様化についても 53→55%と微増した。観点別評価についても研修を進め、生徒の実態・ニーズに沿った評価を進める必要がある。

(生徒指導及び進路指導等)

○自己診断における肯定率、「生活規律」に関する項目、「先生の指導への納得」生徒 77→74%とやや減、保護者 80→84%とやや増。生徒の「基本的生活習慣の確立に力」80→77%とやや減であるが、懲戒件数はほぼ0となっている。以上から生活指導は「生活是正指導」から、「生徒の自己効用感」の醸成への転換の必要性を考察すべき時期に来たと考えられる。

○進路指導においては、生徒肯定率「進路や生き方を考える」70%変化なし、「進路について適切な情報提供」84%変化なし、保護者肯定率「進路や職業の適切な指導」79→83%と引き続き高い評価を得た。

○生徒会・部活動については、生徒肯定率「学校行事参加の工夫」83%変化なし、「部活動に積極的に参加」84→85%、「生徒会活動の活発さ」72→71%となった。保護者肯定率「学校行事参加の工夫」93→94%、と今年も高い評価を得た。

○人権に関しては、生徒肯定率「人権の大切さを学ぶ機会」について生徒の肯定率 74%→77%、「いじめへの対応」75%→74%とほぼ変化がない。保護者の「人権意識を育てる指導」77→80%、教員の「人権尊重の姿勢」82→89%となった。今後も満足せず、啓発に努めたい。

(学校運営)

○「校長は学校を良くしようとしている」(昨年度より)生徒肯定率 87→84%、保護者 85→87%、教職員 94→89%と少し低下、求心力の回復が求められる。

○「地域との交流について」生徒 59→58%、教員 71→65%、保護者 60%→68%となり、活動の周知について校内的なコミュニケーションや周知方法改善の必要性がある。「防災教育について」は生徒 65→81→85→80%となった。今年度の重点的取り組みだものの1つだが、認知度が低かったので情報提供に努め、認知度を高める工夫もしたい。

○教育活動については、保護者「教育方針の伝達」78→85%、保護者「きめ細かな意思疎通」保護者 80%→85%、教職員 89→89%など肯定的な回答が多かった。しかし今年度の後期に重点的取り組みだものの1つである「清掃の状況」については生徒 35→52→59→51%、教職員 29→21→36→47%となった。次年度も引き続き、重点項目として清掃の徹底を進めたい。また、教職員の広報活動肯定度 89%→90%、「HP とメルマガの利用度」が保護者 52→44→49%とやや回復したが、その認知度向上と利用促進のため取組みを促進する必要がある。

・声のかけ方の工夫や味のある授業をされている先生がいて、先生個々それぞれの個性が見受けられるが、生徒に近すぎる先生がいるのは課題。

・インタラクティブの授業、メリハリのある授業、生徒のやる気をどう起こすか、ペアワーク等で知識を確かめ合う授業を期待する。

・学校全体がいい雰囲気になっているし、生徒の挨拶もしっかりできている。

・入部率が今年度少し下がった(-8%)と聞くが、部活の活性化を期待する。

・生徒の苦手なところをフォローしてもらいたい。

・教育環境も整え、生徒・教員がWIN-WINのシチュエーションを持ってもらいたい。

第2回学校協議会(9月29日)

・先生・クラスによって雰囲気が違うが、全体的にますますよくなってきている。また、生徒の授業の受ける態度・先生のテクニックなども良くなり、先生方の努力が見られる。

・私たち大人もじっくり、聞きたい・受けてみたいという授業がいくつかあった。

・生徒の興味・関心を掻き立てる授業が多く、先生の個性でそれぞれの雰囲気をだし、クラスのムードを大切にしているようである。先生方の対応力も素晴らしいものが見受けられた。

・板書やICTの使用においてビジュアルがバラティに飛んでいた(大きな地図を出す、スクリーンを使う、板書にマーカーをさせるなど授業、生徒同士の話し合うなど)とポイントに応じた興味にそそる授業があった。

・クラブの頑張り、挨拶運動など、学校全体の活気・ムードが高まっているようだ。これらを含めて母校への誇りをしっかり持ってほしい。

・広報活動をもっと積極的にすればよいのでよろしく願いたい。

・ALTの活用をクラブなどにも広げて、国際感覚を身に着けるチャンスを増やすと良いと考えるので、改善をお願いしたい。

第3回学校協議会(1月29日)

・保護者・生徒と信頼関係がある学校だと思う。

・地域連携に関しては、地域での活躍がされているのに校内生徒の評価が低いのなら玄関や目につくところなどに生徒向けにポスターを貼るなど掲示をしてはどうか?そのことによって生徒の自尊感情も高まり、学校も盛り上がると思う。

・始業式・終業式にクラブ表彰をしているとのことだが、地域活動も表彰するとよい。

・清掃は年々行き届くようになってきていると思うが、階段などの隅などに埃があると印象が悪いので、これからもより丁寧に行っていただきたい。

・クリーンキャンペーンは保護者も一緒に行きたい。

・子供から聞くと、服装については、クラブに入っている生徒は、先輩に指導されているようだ。良い先輩・後輩関係(いい伝統)があるようだ。

・服装・髪型について気になることはない。自己診断の結果のように納得のいく指導と思われる。

・生徒、教員ともにボランティア活動などは、どんどん参加してほしい。(休日の先生方のボランティアはなかなか難しいかもしれない)

・本日の話を聞くと、学校教育自己診断結果からの学校の目標や課題が認識されている。課題解決の方向へ向けて頑張ってもらいたい。特に、授業改善の課題については中学校との交流も続けていただき、お互いに切磋琢磨できればよいし、中学校側の励みにもなる。

・部活動の好結果(野球、サッカーその他)が地域にも地域の中学校にも良い影響と「地域の誇り」を与えてくれている。

・授業改善の取組は進められていると感じる。“better than before”になっていると感じるので、粘り強く進めてほしい。今後についても、授業改善については粘り強さを持って進めていただきたい。また、教科ごと、学年ごとなどで「プチスローガン」を決めて発するなど、焦点を絞りながら授業改善を進めることは必要である。そうすると、徐々に変化が現れる。ALについても簡単に短い考えのまとめ・発表から少しずつ広げていただきたい。たとえば、10分だけ対話する・グループでの発表をする・意見交換をするなど…できることからやっていただきたい。

・教材研究もさることながら、授業研究、授業の流れなどを考えた授業を多くしてもらいたい。

本年度の取組内容及び自己評価3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進 「確かな学力」の育成と「魅力ある授業づくり」の推進	<p>(1)「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取組み</p> <p>ア 生徒の主体的な学びを実現するための授業改善の取組み</p> <p>イ 公開授業を活用した授業改善の推進</p> <p>ウ ICTを活用した授業の推進</p> <p>(2)「確かな学力」の育成に必要な規範意識の醸成</p> <p>ア 登校時に校門での一斉遅刻指導を継続する。</p> <p>イ 校舎・教室内外の清掃・美化による環境整備と授業環境のユニバーサルデザイン化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・指導教諭と若手教員が主となり、有志教員や生徒も参加した授業研修を行い、充実したものとする。</p> <p>・授業改善に資するための教員の校内研修を充実させる。</p> <p>イ 公開授業(4月、6月、11月)を活用し、教員・保護者・生徒の3者からの意見を集約し、授業改善を推進する。</p> <p>ウ ICT活用等を活用するなど生徒の授業アンケートの「授業内容に、興味・関心を持つことができた」「授業内容に、知識・技能が身に付いたと感じている」の項目のレベルアップをはかる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒指導部を中心に輪番体制で毎日、校門での一斉遅刻指導及び身だしなみ指導を行う。</p> <p>イ 日々の清掃活動の徹底をはかり、学習環境を整えかつ授業時の環境のユニバーサルデザイン化を行う</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。</p> <p>・校内研修の毎学期実施、年3回以上。</p> <p>・「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率61%(平成28年度56%)</p> <p>イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数65以上。</p> <p>・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」70%(平成28年度67%)、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率67%以上(平成28年度64%)。</p> <p>ウ・自己診断における「授業へのICT活用の機会」の生徒の肯定率72%(平成28年度68%)。</p> <p>(2)</p> <p>ア・年間遅刻合計回数3465。(平成28年度3933)</p> <p>イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ63%以上、40%以上(平成28年度59%、36%)</p>	<p>(1)ア・授業研修の取組み状況についてホームページに掲載。(○)</p> <p>・校内研修実施7,10,12月に実施。2月に第4回実施予定。(◎)</p> <p>・「自分の考えをまとめ、発表する授業」肯定率55%(△)</p> <p>イ・公開授業(授業研修含む)のコマ数80回以上実施。(○)</p> <p>・生活基本調査における生徒の「授業への満足度」66%、自己診断における生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の生徒の肯定率64%。生徒が主体的に参加できる授業を増やし、肯定率をさらに上げたい。(○)</p> <p>ウ・自己診断における生徒の「授業へのICT活用」70%。さらなる授業への活用を検討したい。(○)</p> <p>ア・年間遅刻合計3465。(◎)</p> <p>イ・「清掃が行き届いている」生徒・教員それぞれ51%、47%(平成28年度59%、36%)(○)</p>
2 充実 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成とキャリア教育の推進	<p>(1)キャリア教育の充実 学年を追うごとに進路目標と卒業後の職業観が深化する取組みに実施</p> <p>(2)生徒の希望進路実現への取組み</p> <p>ア 進学指導方策の検討</p> <p>イ 具体的内容の検討</p> <p>(3)国際理解教育と英語教育の推進</p> <p>ア 国際理解教育活動の継続</p> <p>イ 今後の方向性の提示</p> <p>ウ 英検受験の奨励</p>	<p>(1)</p> <p>進学も含めた将来の生活設計を考えるため、1年時よりキャリア教育の充実を図る。</p> <p>(2)</p> <p>ア 進路指導部と学年が協同し、計画的な進路講習を計画するなど、3年間を見据えた進学指導のさらなる充実を図る。</p> <p>イ 生徒の希望進路の実現に向け、担任及び教科で具体的な方策を検討し、充実を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア 国際交流研修の推進として、近隣の府立4校合同でオーストラリア交流研修を継続・充実をはかる。</p> <p>イ HPや文化祭等での発表を充実させる。</p> <p>ウ 英検受験を推進し、必要な生徒には合格のための補講を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率87%以上。(平成28年度84%)。</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学85%(平成28年度82%)(年度末調査)とし、就職100%(平成28年度100%)を維持する。</p> <p>イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。3回実施。のべ生徒参加者180人以上。(平成28年度162人)</p> <p>(3)</p> <p>ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者5人以上の維持。参加校全体での研修と成果発表会を実施する。</p> <p>イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開する。</p> <p>ウ 35人以上の英検受験者を確保する。(平成28年度27人)</p>	<p>1)</p> <p>・自己診断における「将来や進路について考える機会」の生徒の肯定率84%。(△)</p> <p>(2)</p> <p>ア 生徒の希望進路実現率を4年制大学91%。(年度末調査)・受験中)就職率100%を現在維持。進路全体の満足度95%(年度末調査)(◎)</p> <p>イ 「集中勉強会」の参加生徒増及び内容の充実。の参加者のべ510人(◎)。</p> <p>(3)</p> <p>ア 語学研修の参加や内容の充実を図る。参加者4人。参加校全体での研修を実施した。(○)</p> <p>イ 派遣先での交流をHPで公開するとともに文化祭等で発表し、公開した。</p> <p>ウ 英検受験者2学期末60人以上。3学期に校内受験実施(◎)</p>
3 部活動の活性化及びリーダーシップによる生活規律の向上	<p>(1)クラブ活動の活性化</p> <p>ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み</p> <p>イ 指導者の確保と校内での重点クラブの指定</p> <p>ウ 活性化策を検討</p> <p>(2)クラブ員及び生徒会のリーダーシップによる生活規律の向上</p> <p>ア 生徒自ら生活規律の向上を図る方策の検討</p>	<p>(1)</p> <p>ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。</p> <p>イ・部活動代表者会議による重点クラブの指定や会議内容の広報に努め、部活の活性化に努めるとともに人的及び予算面で配慮し、効果をあげる。</p> <p>ウ 活性化策を検討</p> <p>(2)</p> <p>・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ87%以上、4%以下(平成28年度81%退部率7%)</p> <p>イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行う。</p> <p>ウ・クラブ代表者会議での生徒要望を集約する。(各学期1回計3回以上実施を継続)</p> <p>(2)</p> <p>・クラブ代表者会議等において、生徒による生活規律の向上を検討する。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率83%以上(平成28年度はともに80%、80%)を達成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・1年生のクラブ加入率、退部率をそれぞれ73%以上、10%(平成28年度81%退部率7%)(△)</p> <p>イ・予算の傾斜配当と活動場所の最適化を行った。特に体育館系クラブに配当。(○)</p> <p>ウ・クラブ代表者会議(部活動集会)を各学期実施。(○)</p> <p>(2)</p> <p>・クラブ代表者会議(部活動集会)等において、生徒による生活規律の向上を検討。自己診断における「生活規律」に関する項目の生徒・保護者のいずれも肯定率77%、84%。(○)</p>
4 さらなる充実 人権教育と教育相談機能の	<p>(1)人権教育の改善と充実</p> <p>ア 本校として時勢に即した人権教育計画を策定と改善・充実</p> <p>(2)教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実</p> <p>ア 教職員へのカウンセリングマインドの周知と徹底</p> <p>イ SCの相談日回数の確保及び相談室の案内と利用の促進</p>	<p>(1)</p> <p>ア・人権教育企画委員会(略して「人企委」)の議論を活性化し、本校として時勢に即した年間計画を策定し、今年度は、「自尊感情の醸成」をテーマに実践する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接し、生徒一教職員相互の信頼関係強化を一層徹底する。そのための情報共有をはかる。</p> <p>イ・SCの相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。</p>	<p>(1)人権教育の改善と充実</p> <p>ア・自己診断における「人権教育充実度」の生徒の肯定率82%以上。(平成28年度74%)</p> <p>・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率72%以上。(平成28年度68%)</p> <p>(2)教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実</p> <p>ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率80%以上。(平成28年度79%)</p> <p>イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有し、かつSCのべ25回相談日を継続する。</p>	<p>(1)人権教育の改善と充実</p> <p>ア・「人権教育充実度」の生徒の肯定率78%(△)</p> <p>・自己診断における「人権教育取組み充実度」の教職員の肯定率72%。(○)</p> <p>(2)教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実</p> <p>ア・自己診断における「教育相談体制充実度」生徒の肯定率81%(○)</p> <p>イ・SCの教育相談内容を研修や個別相談により充実をはかり教職員で情報共有し、かつSCのべ25回相談日を継続。(○)。</p>

## 府立大冠高等学校

5 広報活動と地域連携の充実	<p>(1) 学校説明会・中学校訪問や広報活動の充実</p> <p>ア 学校説明会・中学校訪問の充実と連携会議の導入</p> <p>イ 広報内容の充実 特に HP 継続的な更新及び配付物による教育活動の公開</p> <p>(2) 地域連携の取組み 授業、クラブ、生徒会等における地域連携への取組みの強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・入試改革による影響を的確に把握しながら、地元高槻を中心に枚方方面の中学校の意向や意見を反映できるよう工夫する。</p> <p>イ・広報活動を効果的なものにするためのコンテンツの充実を図り、また HP の更新に努め、本校の教育活動を公開する。</p> <p>(2) 授業、クラブ、生徒会等において、地域との交流機会を増やすとともに、HP 及び紙媒体での広報に努め、本校への理解を深めてもらう。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・第 1 回学校説明会への参加者数 300 人以上の維持。クラブ見学会の継続及び学校見学会の 3 日以上実施。(平成 28 年度 300 人、第 2 回学校説明会実施及び学校見学会 3 日実施)。地元中学校と府立学校の連携会議の開催。</p> <p>・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ 60 校以上を継続、中学校の要望を聞き取り、反映する。教育産業への働きかけものべ 20 校以上を継続する。</p> <p>イ・HP を担当するため教職員のチームで内容充実と年間 60 回以上の更新を継続する。</p> <p>(2) 自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率 63%以上(平成 28 年度 59%)。</p>	<p>1)</p> <p>ア・第 1 回学校説明会への参加者数 340 人。第 2 回も約 240 人参加。部活動体験会は 200 人超の参加。学校見学会の 3 日間 5 回実施予定。地元中学校と府立学校の連携会議を 2 回実施し連携を深めた。(◎)</p> <p>・入学実績をもとに高槻市を中心に枚方、寝屋川までの中学校への訪問をのべ 70 校以上実施、中学校の要望を聞き取り、連携調整。教育産業への働きかけものべ 20 校以上を継続。(◎)</p> <p>イ・HP を担当するため教職員のチームで内容充実と年間のべ 74 回更新。(◎)</p> <p>(2) 自己診断における地域貢献に関する項目の生徒の肯定率 58%。(△)</p>
-------------------	---	---	--	---